

2011 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	安野 智子		
NAME	SATOKO YASUNO		

1. 研究課題

(和文) 日本人の中核的価値観 (core values) の検討

(英文) Core Values in Japan

2. 研究期間

2010年4月～2012年3月

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

[背景] 世論調査の結果を「世論」「民意」とみなすことに対しては、測定の妥当性という観点からの批判がある。主な批判には、世論調査が回答者の真の態度を測定できているのかという研究者側の問題と、果たして市民が、民主主義の前提とされるだけの政治関心や知識を持っているのか、つまり測定された「政治的態度」はどれだけ信頼のおけるものなのかという回答者(市民)の側の問題とがある。世論はしばしば、全体としては安定しているが (Page & Shapiro, 1992) 個人内での変動は大きい (林, 1993)。ただし個人内でも安定性の高い態度と変動しやすい態度はありと考えられる。たとえば、近年では、価値観の中でも安定性の高い「中核的価値観 (core values)」という概念が検討され (e.g., Alvarez & Brehm, 2002; Goren, 2002)、(アメリカでは) 政党帰属意識や道徳観、家族観などの中核的な価値観は、個々の争点態度よりも安定性が高いことが指摘されている。

[目的・計画] 以上を踏まえ、本研究では、広範な価値観設問を含む既存の世論調査データ (JGSS, JES3 など) を用いて、価値観体系の安定性を測定する。

[内容・成果] JGSS や内閣府世論調査などで世論動向の推移を見ると、アグリゲートなレベルでは、価値観は比較的安定しているか、変化が一方かつ緩やかなものが多かった。パネルデータ (JES3) で政治意識における個人の意見の変化を追うと、たしかに総じて変動は大きい (2年後に同じ意見を保持していたのは5～6割前後の問が多い)、安全保障関連の態度は経済問題に関する態度よりも変動が小さいなど、争点による違いが見られた。

(英文)

In recent years, some researchers have focused on the role of core values in the public opinion process (e.g., Alvarez & Brehm, 2002; Goren, 2002). Core values are considered as stable beliefs to construct political attitudes, such as moral beliefs and party identification. This study investigated the core values in Japan, using major survey data.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

なし

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

(1) 安野 智子 (2010) 会話ネットワークにおける異質性・同質性の知果
— 会話ネットワークサイズとの交互作用 —
日本社会心理学会第51回大会 (札幌発表)
広島大学, 2010年9月17-18日

【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

(分担執筆)

(1) 安野 智子 (2011) 「デジタル時代のトランスヒューマン」 松野良一 監修 『デジタル時代の人間行動』 中央大学出版部 pp. 83-91.

(2) 安野 智子 (2011) 「世論と政治意識」 唐沢 稔・村本由紀子 (編著)

『社会と個人のダイミクス』 (展望現代の社会心理学 3) 言文信書房

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

第6章 114頁

(1) 安野 智子 (2011) 「世論と政治意識」 日本心理学会 編

『心理学ワールド』 50号 刊行記念出版 pp. 157-161 p14頁

(2007年刊行の記事を編纂・出版した)